

適正価格を示し、左官の魅力を建築家に知ってもらう

(有)ますいいリビングカンパニー
代表取締役 増井 真也氏に聞く

もっと自由に家をつくろう。住まいとして調和の取れたほどよい空間をつくり、自分らしい家をつくりたい。(有)ますいいリビングカンパニーは工務店機能を兼ね備えた建築家集団だ。代表を務める増井真也さんはクライアントの想いを実現する設計を行い、そうした中で左官を知り、左官の技能や技能者の持続可能な確保の研究のため、ものづくり大学の三原研究室で修士課程に進んだ。

このほど建築家・石山修武氏を代表とする「A3ワークショップ」が伊豆松崎町で開催され、増井さんは実行委員会事務局長を務めた。本稿では増井さんに、そのワークショップの意義と左官や漆喰の今後の展望などについて話を伺った。

(編集部)

住宅分野の歩掛調査を

住宅に左官を採用したきっかけを教えて下さい――

当社は、環境や風土と共生する木の家づくりと暮らしを理念に、気候風土適応住宅を設計・施工しています。必然的に地産地消の材料を使い、壁仕上げは漆喰や土といった左官仕上げを提案するようになりました。それを教えてくれたのは愛知県の有限会社勇建工業の加村義信さんで、それまで石膏ボード下地に既調合漆喰を薄塗りすれば、左官仕上げだと考えていたのですが、厚塗りの魅力を知り、木摺下地やラスボーデ下地の上に、土を塗ったり漆喰を塗ったりするようになりました。

現在、当社の左官仕上げは地元川口市の左官職人や小沼充さんに依頼しています。厚塗りを採用できる場合は、ラスボーデに石膏で下塗りを行い、その上に漆喰で仕上げると、光のあたり具合で微妙な陰影がつき、印象深く高級感のある壁になります。

私は茶道をやっている関係で、茶室や和室の設計を依頼



▲「もっと左官のファンを増やしていく、その価値を知ってもらう機会を作っていくたい」と語る増井氏



▲伊豆松崎町にある近藤平三郎生家と同敷地内会所にて開催されたA3ワークショップ

されることがあります。伝統左官の構法が得意な小沼さんには、茶道口の仕上げに大津磨きを施工していただきたり、茶室の壁に聚楽土と沖縄の赤土を混ぜて使ってもらったりしていただき、左官の奥深さを知りました。次第に、素材を活かす左官に興味を持ち始め、ものづくり大学の三原斉教授のもとで修士課程に入りました。